

## 11・9 外国人選手と初対戦

# 3度目の正直へ 強み

▽女子フライ級 4回戦

石井愛世 (高崎) 50.2 <sup>kg</sup>	TKO 4回 1分31秒	高木千愛 (ワタナベ) 50.7 <sup>kg</sup>
------------------------------------	--------------------	--------------------------------------

公認会計士資格を大学2年次で取得後、ボクシングのプロテストに合格した中央大学商学部4年の高木千愛(ちあき)さん=ワタナベジム=が6月30日夜、東京・後樂園ホールでプロ2戦目に挑んだ。

## 会計士プロボクサー 高木千愛さん (商4)

脱いだTシャツの下から現れたリングウエアに驚かされた。スパンコールを思わせるキラキラしたスカイブルーのウエアだ。

トランクスには、プロの証明とも



いえる初のスポンサー、資格取得をサポートする「TAC出版」の社名。その上に大きく『千愛』。左胸には中大の赤い『C』マーク。

リングを照らす頭上のライトが、学生プロファイター高木千愛をクローズアップさせていた。

昨年11月のデビュー戦は2回1分13秒TKO負けだった。以来、暮れから正月、桜が咲くころも、ひたすら初勝利を目指し、この夜のために全身全霊を打ち込んできた。

会場には『DANGAN』〜リングは戦場、拳は弾丸〜と銘打った今大会全11試合の共通キャッチフレーズが横断幕として掲げられている。

注目の女子フライ級、2分間・4ラウンドは第2試合だ。午後6時14分、ゴングが鳴った。青コーナーから勢いよく飛び出して行く。積極的

に打って出る。フットワークもいい。上々の滑り出した。

第2ラウンド。1分46秒にスリッパから不運なダウンを喫した。そのときだった。観客席から女性の声援が飛んだ。「千愛! 頑張れ!」。2階席からは野太い声。「高木! ファイト!」。大勢の支援者が声を出す。リングとスタンドが一体になっている。

後半の第3ラウンド。レフェリーが対戦相手、石井愛世選手(19)の動きを止めた。肘打ちになっているとの注意だ。チャンス到来と見てラッシュをかける。クリンチから執拗なボディ攻撃。

第4ラウンド。最終回だ。両者激しい打ち合いから、コーナーに相手を追い詰めた。「千愛! 頑張れ! 千愛!」。高木陣営は誰もが立っ



ている。座ってなんかいられない。

「ウッ」。強烈なパンチを浴びた。のけ反るほどのダメージだ。相手のガードは固い。攻めあぐんでいるところ、今度は右ストレートを顔面に受けた。鼻血が出た。気力はいささかも衰えていないが、向かっていったとき連打され、レフェリーが止めに入った。

「どうして止めるの」。逆転KO勝ちを目指していた。最後の最後まで戦いたかったが、試合終了となった。4回1分31秒、前回に続くTKO負けを喫した。

高木選手は、リングを囲む四方向へ丁寧にそれぞれ一礼して戦いの場から下りた。待っていたのは支援者らが作っていた花道だ。次々にハイタッチ。21歳の心に敗戦の悔しさと応援のうれしさが重なり合う。

「きょうは落ち着いていて、狙ったところに打てました」。この手ごたえをさらに確かなものにしていく。「今度こそ」の思いが胸を突き上げた。

3人のジャッジが付けた採点表によると、1Rと3Rで2人のジャッジが最高の10点と評価した。2Rのダウン、4Rにあった深いダメージを改善すれば、勝機が見えてくる。敗戦にも一筋の光明が差している。

試合後は流行のシフォンスカートに着替えた。日ごろから「可愛い洋服が好き」。会う人ごとに「勝てなくてごめんなさい」と頭を下げる。水囊で顔を冷やすシーンがなければ、かわいい女子大生である。

「細い体で、しかし、タフだよなあ」と感心する声しきり。記者席からも驚嘆の声が上がった。デビュー前か

ら取材しているデイリースポーツの津野哲也記者が言う。「見違える進歩ですよ。初勝利は近い」

次戦が三度目の正直となる。11月9日、東京・後樂園ホール。プロ入り初となる外国人相手、タイのベッチャラット・シットサイトーン選手。千愛の春は、もうすぐだ。



## 相次ぐテレビ番組出演

当初母親はボクシングに反対だった。娘が殴られるシーンを見るのはつらい。競技に対する娘のひたむきさに理解を徐々に示し、いまでは応援席で見守る。そんな母子物語をBSジャパン『グッドマザーズ』（土曜朝8時）が2回編成で放送した。BS日テレ『週刊！ 大学生生活図鑑』（木曜夜11時）でも「公認会計士＆プロボクサー女子学生に密着」として紹介された。